夕焼け通信 1322号　2021.9.20
〒690-0823　島根県松江市西川津町4276-B402　gosuitei.sakura.ne.jp/yuyake/　編集 宮森健次

専業ババ奮闘記（その２） 68

木幡智恵美

コロナ禍の中で（7）

暑くなり、新型コロナウイルス感染第二波が押し寄せてきた。

どこへ行くにも、何をするにもマスクの生活。武道館でする合気道の稽古は、呼吸の鍛錬、基本動作、相手を想定した一人でする型の練習だ。投げたり受け身をとったりはしないので、動きは激しくないが、汗はかくし、不織布のマスクだと息苦しい。で、手拭いで十枚ほど作った。これだと、汗は吸うし、肌触りもいい。以来、どこへ行くにも手拭いマスクだ。

点訳の勉強会ももちろんマスク掛けだ。眼鏡をかけると、この手拭いマスクでも眼鏡が曇って見えなくなる。勉強会では何とか裸眼で目を細めながら点訳をしている。

東京オリンピックはコロナ感染拡大のため一年延期となったが、海の日やらスポーツの日やらで休みが続いた。どこにも出られない中、三人の子守りは大変なので、娘には三日連続で手伝いを頼まれた。義母がいる日はうちに来て、デイサービスに行く日は私が玉湯に出かけた。梅雨がまだ明けず、家の中で遊ぶしかない。寛大はブロックとテレビ、実歩はパズルとあまいブロック。岡山のおもちゃ王国に行った際、長男に買ってやったブロックで、棒状のものやら、雪の結晶のような形のものやらを自由に組み合わせるものだ。少し複雑なものなので、寛大にと出してやったのだが、実歩の方がはまってしまった。組み合わせる時、かなり力がいる。テーブルの上に置いて、かちっとはめて見せると、すぐにコツを覚え、どんどんつないでいくようになった。一つだけ、はめると緩いのがあって、「これ、あまいね」と言って以来、実歩は「あまいブロックする」と言うようになった。

宗矢は、寛大や実歩が小さい時によく聞いていた歌の本を開いて遊ぶようになった。遊ぶというよりも、本に付いている太鼓叩き用の棒をくわえていることが多い。何でも口に入れたがる時期なのだ。

「ごめんね、毎日。お祖母ちゃんで大変なのに」と娘。「最近、雄二も含めて婆さんのことを話すことが多くなったわ」と返す。不機嫌になることが増え、暑さ寒さの感覚がおかしくなったことに加え、最近は昼夜逆転気味で、夜中に襖を叩くことが多くなってきていた。

がらがら橋日記

宮森健次

カブ8　怪談

小泉八雲の怪談が好きで、教員になってからずっと読み聞かせを続けた。怖がらせるためにグロテスクな部分を強調したような話だったら鼻につくが、八雲のそれは薄からず濃からずの絶妙な加減で、切なくも背筋の凍る怖さは唯一無二だと思う。

授業が早く終わるとか、予定が急遽変更になるなどして隙間の時間ができたときなど子どもたちから怖い話をねだられる。物語好きの多い学級だと授業そっちのけで要求してくるので、「怖い話してください」「できるわけないだろ」「ハハハッ」というのが授業始めのあいさつ代わりになったりする。

小泉八雲の怪談はトリだ。つなぎの話をいくつかしてから真打ちに登場してもらう。そのつなぎには、自分の体験談や聞いた話、イギリスやイタリアの民話などを使ったが、これも続けているうちにこなれてくるのはおのずと絞られてくる。話にも相性があるのだ。

体験談でよく使ったのが、函館二泊目、旅館での出来事である。あまりに快適でテント泊が嫌になってしまい、あれこれ理由を付けて同じ旅館に連泊することにしたのだった。

二日目、部屋を移ってくれと言われ、一階から二階の部屋に変わった。満室でもないし、同じような部屋であるのになぜなのか不思議だったが、断る理由もない。一日函館を回って早めに床についた。

深更、ふと目が覚めると、通りに面した障子窓の向こうでガラス窓と瓦屋根をパラパラと雨が軽く叩いている。窓のすぐ外で男女の話し声がした。男はすがるように懇願し、女は吐き捨てるようにそれを断っている。わずかにやりとりが続いた後、闇を切り裂くような悲鳴が響いた。同時に雨がにわかに激しくなって、二人の声もその中に消えていった。

すっかり目覚めていたのに、なぜかぼんやりした気分でぼくはそれを聞いた。起き出して障子を開けてみることもしなかった。しばらく今の出来事に思い巡らせたが、不審とか恐怖の感情は湧いてこず、やがてそのまま寝入ったのだった。

翌朝の朝食の際も、ほかの宿泊客、従業員だれもまったく何事もなかったようにしていた。ぼくは、あれは何だったのかうっすらと引っかかったままだったのだが、結局だれにも聞かぬまま旅館を後にした。

二人の声が二階の窓のすぐ外、つまり、通りの上の空中というあり得ない場所から聞こえてきたことを思うとなかなかの異常ぶりだった。

これまで散々子どもたちへのネタにさせてもらったけれど特にバチが当たった形跡はない。小泉八雲が浄化してくれているのかもしれない。

30代フリーター　やあ、ジイさん。秋篠宮の長女の眞子と小室圭が来月にも結婚する可能性があると報じられている。結婚式などの儀式はしない方針といい、見ようによっては皇室の面目丸つぶれに映る。

年金生活者　ふたりは婚約内定以来、週刊誌やネットでたたかれっぱなしだった。とりわけ小室圭は、母親が金銭トラブルを抱えていることや、彼が定職をもっていなかったことが皇族の結婚相手として不適格であるかのように非難された。

御田寺圭という物書きがそうしたバッシングを批判している。小室は安定した職業に就いているべきだという批判は「男は甲斐性」という性役割の押しつけであり、「この社会全体が『男尊女卑』を強固に内面化していることの証左であるように思える」と（「なぜ『小室圭さんは、いくら叩いても構わない』風潮が生まれたのか」、２０１９年2月21日）

男女平等ランキングが１５３カ国中１２０位の私たちの国でもふだんは男女平等へのあからさまな反対が表面化することはないのに、皇室が絡むとそれが公然と語られる。今年6月、安定的な皇位継承策を議論する有識者会議が、女性・女系天皇の導入を見送ることにしたのはその一例だ。このことは天皇制そのものに男女平等を排する要素があることをうかがわせる。

30代　皇位継承を男系男子に限る制度は女性差別だろう。

年金　私たちの国の男女不平等は制度やシステムだけでなく、歴史が形成したエートスに起因しており、その根幹にあるのが天皇制と考えられる。言い換えれば、天皇制そのものが男女平等を排する原理に支えられていると言っていい。

30代　どんな原理なんだ。

年金　古事記神話では、天皇の始祖はアマテラスとされている。吉本隆明は『共同幻想論』の中で、このアマテラスと弟のスサノオの関係を、女性が種族の宗教的な規範をつかさどり、その兄弟が現実的な規範によって種族を支配した母系制社会の象徴ととらえている。この姉と弟の関係に、男女不平等に通じる性役割の分化を認めることができる。

この分化は農耕社会の成立を前提としている。女性は新しい生命を誕生させ、その生命の生殺与奪の権も握っている。つまり女性は生命を創造し、その死命を制することのできる神でもある。そんな信仰が農耕と結びついたとき、すなわち子を生み育てる力が穀物を実らせる力と同一視されたとき、母系制の社会が成立し、女性が宗教的な規範を、その兄弟が現実な規範をそれぞれつかさどる性役割が生まれたと考えることができる。

30代　話が大昔過ぎるな。

年金　その残滓は今も近代的な性役割に形を変えて残っている。女性が宗教的な規範をつかさどった歴史は妻が家庭の主導権を握る形で、女性の兄弟が現実的な規範をつかさどった歴史は夫が生計の主な担い手となる形で受け継がれた。

母系制を起源とする天皇制は性役割の分化を原理としている。現在の天皇および皇室の存在が直接、男女の平等を妨げることはないだろうし、まして天皇個人はリベラルと推察され、ジェンダーフリーが進むのを望んでいると思われる。それでも天皇制は母系制的な原理を日本人のエートスとして維持する力になっており、それがジェンダーフリーにブレーキをかけていると言わなければならない。

30代　母系制では女性が男性より優位に立っているように見える。それなら女性差別とは言えないだろう。

年金　肝心なのは性役割が分化したことであり、どちらが優位に立つかはそのときの条件による。だから逆転もある。

西欧の近代社会は女性優位の母系制の残滓を一掃し、逆に女性差別を拡大した。国民国家と資本主義がそれを強いた。いま女性差別に厳しい目が注がれるようになったのは、差別を強いた国民国家と資本主義が変容しつつあることを物語っている。

30代　近代社会はこれまで自らの理念に反することをしてきた。

年金　国民国家は封建社会にはなかった徴兵制を導入した。それは封建貴族社会あるいは武家社会の女性差別を国民全員に拡張することを意味した。軍事では筋力に勝る男性が尊重される伝統がそれらの社会にあったからだ。

資本主義がもたらした工業化も、筋力に勝る男性の労働力を重宝することによって女性差別を民衆の間に広げた。それまで社会の大部分を占めていた農業労働は男女の差がそれほど意識されなかった。

徴兵制は男性を居住地から離れた基地や戦場に動員し、工場労働もまた職住の分離を促した。男性は外で働き、女性は家庭を守るというイデオロギーの物質的な基礎が生まれた。

いまその基礎が崩れてきている。軍事技術の高度化と徴兵制の廃止、そして産業のソフト化と職住の再接近は、筋力の優位性の神話を打ち崩し、女性は家庭にというイデオロギーを解体しつつある。

男女の筋力の差は程度の差に過ぎず、それもたいした差ではない。軍事にしろ労働にしろ男女が入れ替わっても、結果は大差がないはずだ。男性の筋力の優位性は統計的な差を誇大化した神話に過ぎない。

だとしたら、日本では天皇制がジェンダーフリーを阻む最後の砦になる可能性がある。

ニュース日記　800

中村　礼治

ジェンダーと天皇制